

めずらし

# 珍布峠ウォーキングコース

道標→珍布峠→礫石→常夜灯→橋地蔵→飯高駅のコースなら4km、約1時間強の行程です

飯高町を横断する国道166号線は、伊勢と大和、和歌山を結んだかつての「和歌山街道」とほぼ一致します。この旧街道沿いには宿場町の面影をとどめる町並みや石碑、道標などを見ることができます。珍布峠ウォーキングコースは、飯高駅から本陣跡をかすめ、国分け伝説の旧跡「珍布峠」や「礫石」を巡る自然豊かな散策コースです。アップダウンが少なく、徒歩で約2時間、7.5kmほどの行程です

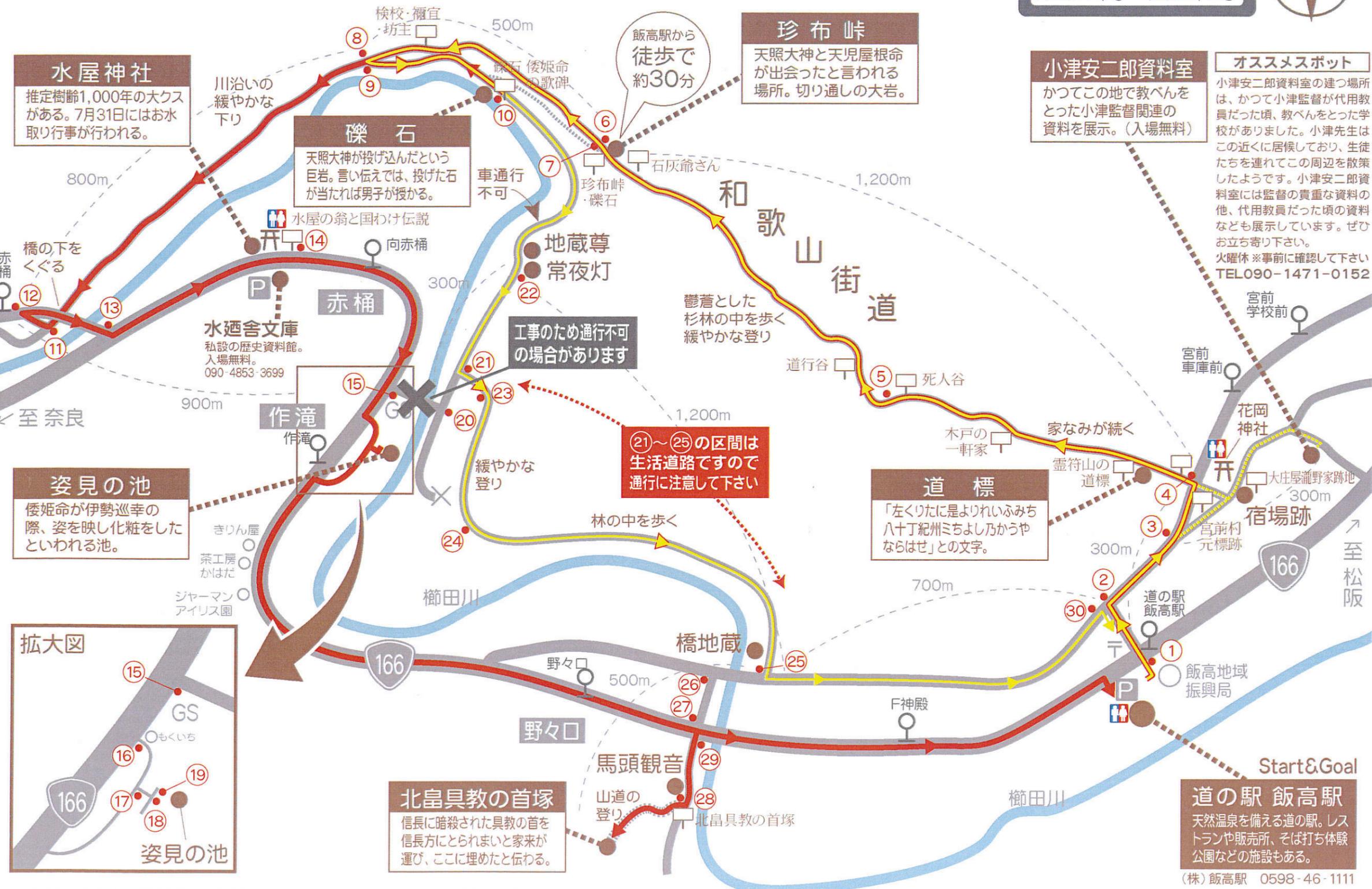
ロングコース 6.5km 1.5時間  
ショートコース 4.5km 1時間強  
※ 距離や時間は目安です

工事のためコースを一部変更しています

2013 12/3 ~ 2014 2/28



ロングコース	→
ショートコース	→
コース案内板	●
名所・旧跡	●
観光看板	□
三重交通バス停	♀



## 珍布峠・礫石 ~国分け伝説~

神代の昔、伊勢の神様である天照大神(あまてらすおおみかみ)が白馬に乗って旅をなされ、現在の飯高町宮前と赤桶の境にある峠(※1)にさしかかられた大神は、「伊勢と大和の国境がどこにあるか知る者はいないか」とお尋ねになられた。すると水屋の森から白髪の翁が大神の前に現れた。「おや、お珍しい。天児屋根命(あまのこやねのみこと)ではないか」春日の神である天児屋根命は峠の下を指して、「この下の境ヶ瀬が伊勢と大和の国境でございます」と申し上げた。

この国境に疑問を持たれた大神は、石を川に投げ入れて波のとどまったところを国境にしようと、天児屋根命に持ちかけられた。大神は、そばにあった大石(※2)を軽々と持ち上げられ眼下の櫛田川に投げ入れられたところ、大量のしぶきが上がり滝のように落下した。

その様から、この辺り一帯を「滝野」と名付けられ、その波が打ち寄せた場所を「加波(かば)」、「波瀬(はぜ)」、「舟戸(ふなど)」などと呼ぶようになった。

結局、大神は「今日のこの日より高見山を国境としよう」とおっしゃり、伊勢と大和は高見山を境に分けられるようになった。

※1 《珍布峠》 ※2 《礫石》

(株)飯高駅 0598-46-1111

